

# 樟木館日和

しゅもくかんびより ◆ 第二十二号



発行日: 2020年9月30日

発行: 文化のみち樟木館

指定管理者: 特定非営利活動法人樟木俱楽部



## なごや折り紙建築展・立ち寄りス。ホット

# 「様式美あふれる莊厳な外観

## 名古屋市市政資料館」

建築史家 村瀬良太

### なごや折り紙建築展について

なごや折り紙建築展は、平成28年に文化のみち橦木館で開催され、以後毎年1000人以上の方が来館する人気の企画展です。

折り紙建築とは、紙でできたポップアップ形式の手のひらサイズの建築模型で、元は建築家茶谷正洋氏が考案したもので、その形式を受け継いで、愛知の建物を中心に制作しているのが、名古屋市米野に在住する建築家筧清澄氏です。

建物のバリエーションとしては、橦木館のような住宅から名古屋市役所のような大きな建物まで、また堀川に架かる納屋橋など、愛知の人々には馴染み深いものが数多くあり、来館者を楽しませています。

前年の展示期間中にはこどもの日のワークショップを行い、実際に折り紙建築を作成することで、建物に親しんでもらうイベントも開催しました。

そんな折り紙建築の中で注目したい建物が、新作の名古屋市市政資料館です。

橦木館と同じ東区にある、赤いレンガ調のタイルと白い石積み風のコンントラストが美しい建物です。元は大正11年に建てられた裁判所でしたが、平成元年から名古屋市の市政資料を収蔵・管理する施設に生まれ変わりました。今では国内

でも数少ない現存する貴重なレンガ造りの建物です。

設計者の山下啓次郎は元司法省の技師で、裁判所以外に監獄などを手掛けています。またジャズピアニストの山下洋輔氏の祖父にあたります。

建物の特徴としては、西洋建築のネオ・バロック様

式という19世紀後半に流行したスタイルを基調としています。大日本帝国憲法の元になつたドイツの憲法と

裁判制度に倣い、建物もドイツ風のネオ・バロック様式を取り入れました。細部まで考え抜かれたデザインは今見ても鮮烈で、一時は取り壊しの危機にもあります。

したが、行政を含めた多くの名古屋の人々の努力で、現在も美しい姿を見せてくれます。

2020年は新型コロナウィルスの影響でなごや折り紙建築展を開催することができませんでした。

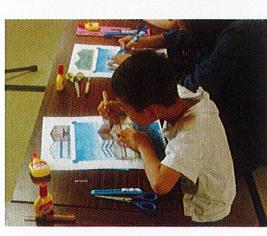
来年の春にはそれが沈静化し、名古屋市市政資料館の折り紙建築を多くの人々にも見ていただきたいと思っています。



なごや折り紙建築:名古屋市市政資料館



過去の開催風景



ワークショップ

### イベント紹介

#### なごや折り紙建築展・セレクション

#### 「橦木館の折り紙建築プレゼント」

日時: 11/3(火・祝) 午前10時~

先着50名様(※無くなり次第終了)

場所: 文化のみち橦木館

(要入館料 大人200円)



毎年春に文化のみち橦木館で

開催される人気企画展の特別編、

橦木館の折り紙建築(ペーパークラフト)を

当日ご来館者の皆様にプレゼントいたします。

ぜひ、折りあげてお楽しみください。

**名古屋市市政資料館「喫茶室」**  
名古屋市市政資料館の2階(中央階段の左側)にある喫茶室のご案内です。  
広い館内見学のご休憩に、お立ち寄りされてみてはいかがでしょう。  
営業時間: 午前9時~午後4時45分  
定休日: 毎週月曜日(第3木曜日)  
主なメニュー...  
コーヒー(ホット/アイス)300円、  
ミックスサンド600円ほか  
※セット割引100円あり(全て税込)



住所: 愛知県名古屋市東区白壁二丁目3  
開館時間: 午前9時~午後5時  
休館日: 月曜(休日の場合は翌日)、  
第3木曜(休日の場合は第4木曜)、  
年末年始  
TEL: 052-953-0051  
入館料: 無料

名古屋市市政資料館「喫茶室」



# 樟木館の不思議

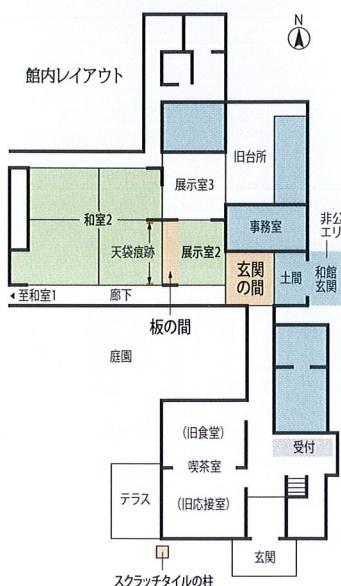
NPO法人樟木俱楽部理事  
伊藤喜雄

玄関の間(げんかん)のまとは、  
玄関の土間に座敷などの居室を仕切る  
部屋。多くの部屋として、来客の  
応対などにも使われた。現在の事務所  
手前横にあるすりガラスの引き戸の  
向こうには当時の和館の玄関(非公開  
エリア)がある。



「玄関の間と座敷の板の間」

和館:玄関の間と座敷との間にある板の間



洋館の展示室2の板の間(①)には、天袋が取り付けてあり、南北に壁(②)、東西には建具をはめこむための敷居(③)があります。一見すると押入れのような収納跡を想像させますが、建設当時は、壁はなく、建具がはまつていて、庭園に面した廊下側から展示室3を通って台所へ至る中廊下になっていたと思われます。建具をすべて外せば、現在使っているように、三室(和室2、展示室2、玄関の間)をひとつの空間として使うことができたでしょう。

戦後の生活様式の変化に伴い、中廊下は壁で

洋館の左側、庭園入口にモニュメントのようなスクラッチタイルを張った柱が一本立っているので、何の柱か不思議に思われています。

元々は、洋館とは袖壁で繋がっていたが撤去され、柱下部には撤去跡が見られます。



玄関左側:スクラッチタイル柱



スクラッチタイル柱下部:袖壁撤去跡



座敷から板の間上部に移設された天袋



座敷柱:天袋痕跡

遮断されました。座敷(和室2)内にあった天袋を中廊下の上に移動させたと思われる痕跡は、和室2側の柱に今も見ることができます。建築当時のままであれば、和室2の雰囲気も少し違った感じに見えたのではないかでしょう。

かつて名古屋市東区の樟木町界隈は、輸出向け陶磁器絵付け加工の日本の中心地でした。陶磁器の生産地として有名な瀬戸・多治見の両街道や堀川にも近い立地であったことから、明治半ば、陶磁器の絵付け・加工業者などが全国から集まり、昭和初期には600をこえる上絵付け工場がありました。

こうして「名古屋絵付け」が誕生し、最盛期には、日本で作られた輸出用の陶磁器の7~8割が、この地域で生産・絵付け加工されていました。この「名古屋絵付け」の変遷をまとめた本が、「この地で生まれた名古屋絵付け」で発刊されました。

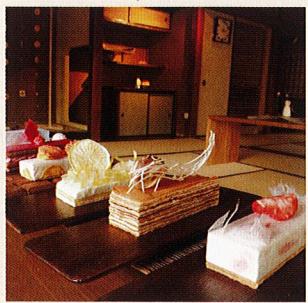
## 知識の源泉書籍紹介



出典:財団法人名古屋陶磁器会館『名古屋陶業の百年』(1987)

「名古屋絵付け物語」  
編・著者:小出朝生  
発行:名古屋陶磁器会館  
発売:風媒社(インターネット販売)、  
名古屋市内書店(注文販売)  
定価(本体2000円+税)

文化のみち樟木館では、館主催イベントをはじめ、貸室利用によるイベントを年間通しておこなっています。当館では和室・洋室・茶室・蔵・庭をお貸しします。詳しくは下記の電話番号、ファックス番号へお問い合わせいただぐかホームページをご覧ください。



9/18~10/11  
和紙スイーツ展 ~奏でる~



7/11  
ジャズライブ・イン樟木館



7/4  
ハープ・カルテットコンサート

## 令和2年度 催し物暦

(4月~9月)